

平成28年度

事務事業評価表 A (平成27年度の実績評価)

記入年月日
平成 28 年 4 月 1 日

事務事業名		近隣大学との連携協力関連事業			事業区分		担当	
政策体系		政策体系上の位置付け			新規/継続	継続	事務事業No.	050403000299
総合計画の施策名		0504 企業誘致及び新産業の育成			単独/補助	単独	所属課	010201
政策名		05 魅力と活力のある産業社会づくり			主要事業	対象外	企画課	
施策名		04 企業誘致及び新産業の育成			市長マニフェスト	対象外		
基本事業名		03 新産業の育成			未来PJ事業	対象外	グループ	企画グループ
財務会計上の位置付け					合併建設計画事業	対象外		
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	事業期間	
法令根拠							単年度繰返し (平成19年度~)	
							← 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入	

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要 (事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
<p>市と大学が連携することにより、過疎化や高齢化をはじめとして様々な課題を抱えている地域に若い人材が入り、住民とともに地域の課題解決や地域おこし活動を実施し、地域活性化を図ることができる。こうした取組は、地域及び大学双方にメリットがあり、さらなる充実が望まれていることから、連携事例の収集・整理、継続的に実施できる仕組み作りが求められている。</p> <p>桜川市では、平成19年度に常盤大学と連携協力に関する協定を締結している。また、平成25年度には、茨城大学が実施する茨城大学戦略的地域連携プロジェクトに採択され、茨城大学と連携した活動に取り組んだ。</p>	<p>近隣大学との連携事業を実施する際の各種調整等を行う。</p> <p>平成25年度には、茨城大学が実施する茨城大学戦略的地域連携プロジェクトに採択され、茨城大学との意見交換会、岩瀬駅周辺の住民を対象としたワークショップ等を開催し、今後の岩瀬駅前空間のあり方について検討した。</p>

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移							
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
近隣大学との連携事業を実施する際の各種調整等を行う。 茨城大学との意見交換会、岩瀬駅周辺の住民を対象としたワークショップ等を開催し、今後の岩瀬駅前空間のあり方について検討した。	近隣大学との打合せ・会議開催数	回	0.00	0.00	2.00	2.00	2.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
桜川市の各種事業	事務事業数	事業	898.00	0.00	880.00	880.00	880.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
近隣大学と連携した事業の実施	近隣大学と連携して実施した事業数	事業	0.00	0.00	1.00	1.00	1.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移		26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)	29年度 (目標)	30年度 (目標)	期間限定 総投入量	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0	0	0
	事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	0	0
人件費	正規職員従事人数	人	2.00人	2.00人	2.00人	2.00人		
	述べ業務時間	時間	6.00	10.00	10.00	10.00		
	人件費計 (B)	千円	17	29	29	29		
トータルコスト (A)+(B)		千円	17	29	29	29		

事業費の内訳	27年度事業費 実績 (千円)			28年度事業費 予算 (千円)		
		合計	0		合計	0

(4) 当該年度の実施内容	28年度の事業内容	29年度の事業内容	30年度の事業内容
<p>※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業 			

事務事業名	近隣大学との連携協力関連事業	事務事業No.	50403000299	所属課	企画課
-------	----------------	---------	-------------	-----	-----

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
平成19年度に常盤大学と連携協力に関する協定を締結している。また、平成25年度には、茨城大学が実施する茨城大学戦略的地域連携プロジェクトに採択され、茨城大学と連携した活動に取り組んでいる。

(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?
茨城大学と連携して開催したワークショップに参加した市民からは、大学の専門的な意見、学生の柔軟な意見を聴くことができ、今後の方向性を考える参考になった、との意見があった。

(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目

目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	近隣大学との連携することにより効率的な事務事業の推進に結びつく。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	地域課題解決のための連携であり、妥当である。
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?)	<input type="checkbox"/> 向上余地がない	大学と連携すること自体は手段であり、連携する事業内容により成果は異なる。
有効性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	大学の専門的な意見を受けられなくなる。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性ありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) → 具体的な手段、事務事業名	<input type="checkbox"/> 余地がない	大学と連携すること自体は課題を解決するための手段である。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない	事業費は計上していない。 大学との打合せ等に要する最低限の業務量である。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である	多様な地域課題解決のための連携であり、公平・公正である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																							
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	大学と連携すること自体は手段であるため、今後も各種事業において連携し、大学の専門的な知見を活用していく必要がある。																							
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																							
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う → (複数回答可) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																							
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策	<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> </table>	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×			コスト					削減	維持	増加
成果	向上																							
	維持			○	×																			
	低下		×	×																				
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
(6) 事務事業優先度評価結果																								
成果優先度評価結果 ⑨																								
コスト削減優先度評価結果 ⑥																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A: 継続(現状維持) <input type="checkbox"/> C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B: 継続(改革改善を行う) <input type="checkbox"/> D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>